

第19回 在日コリアン人権啓発東京セミナー

主催：一般社団法人在日コリアン・マイノリティー人権研究センター(KMJ)

在日コリアンは何故日本に住んでいるのか？在日コリアンの人権を考える上では基本的なことです
が、昨今、その歴史や生活状況が歪められて認識されていることが増えています。それが「ヘイトス
ピーチ」のような露骨な民族差別の大きな要因となっています。

当セミナーでは昨年に引き続き、在日コリアン、日本と朝鮮半島の歴史を深く掘り下げて行きたい
と考えています。また、最近注目されている「複合差別」の現状についても、メインテーマの一つとし
ます。民族差別を解消し、真の共生社会をめざすため、ともに学び、考えていきましょう。

－ 開 催 要 項 －

【日 程】

第1期 2017年 7月13日(木) 14日(金)

第2期 2017年 10月27日(金)

第3期 2018年 3月2日(金)

【会 場】(1期) 貸会議室内海4階教室

(2・3期) 貸会議室内海2階教室

東京都千代田区三崎町 3-6-15 東京学院ビル 2 階
TEL03-3261-0017 JR「水道橋駅」西口徒歩1分

【定 員】 80人

【参 加 費】 ・受講料 28,000円(全講義)

・聴講料 a 3,000円(1講義)

・聴講料 b 7,000円(フィールドワーク)

・聴講料 c 4,000円(講義⑧の上映会とトーク)

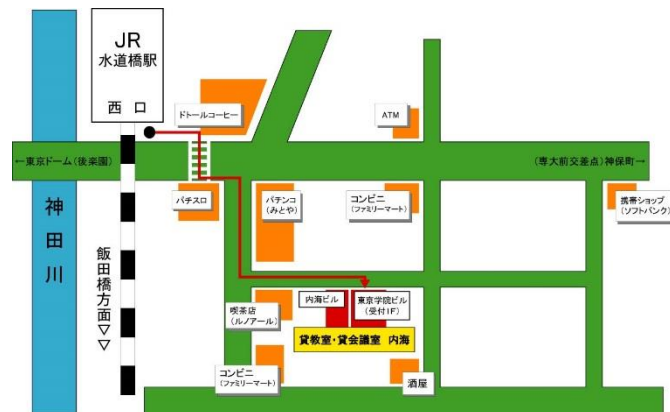
*KMJ 会員の方は1割引です。

【お申込み方法】

7月7日(金)までに別紙申込用紙に必要事項をご記入の上、下記の申込先まで郵送又は、FAXに
てお申し込み下さい。請求書をお送りさせていただきます。受講料(聴講料)につきましては、下記の
銀行口座にお振り込み下さい。当日のお支払いもご対応させていただきます。領収書は、当日、資料
と一緒に渡しいたします。なお、当日は受付にてお名前をチェックさせていただくことで参加確認
をさせていただきます。

☆お振り込み先

三菱東京UFJ銀行	生野支店	普通預金	3936599
名 義	一般社団法人在日コリアン・マイノリティー人権研究センター		
理事長	仲尾宏		



*今回よりこれまで開催時期にばらつきがあったことを考慮し、第1期、第2期、第3期とすることにしました。

【第1期講座】

一日目（7/13）

講義① 日本の朝鮮植民地支配と在日コリアン

講師 水野 直樹さん（立命館大学客員教授・元京都大学教授）

日本の朝鮮植民地支配が在日コリアン形成の最大の要因であったことはいまでもありません。では、具体的に何が行われたのか。最近『在日朝鮮人』を編まれた水野先生に基礎事項をお話いただきます。

講義② 大阪府警「土人」発言と排外デモをつなぐもの ～排外主義の深層と共生への展望～

講師 能川 元一さん（大阪経済法科大学客員教授）

昨年、沖縄で警察官が市民に対して「土人」という差別発言を行いました。このような発言が行われる背景には何があるのか。このテーマを専門的に研究している能川先生にその深層についていただきます。

講義③ 「ヘイトスピーチ」に抗して ～川崎・桜本からのメッセージ～

講師 ちえ かんいじゃ 崔 江以子さん（川崎市ふれあい館職員）

昨年、川崎市・桜本では市民の力で排外デモを中止させたことで一躍有名になりました。そこで子どもと一緒に闘ったオモニ（母親）崔さん。崔さんは排外デモの主催者に「出会い直しませんか」と呼びかける手紙を渡しました。崔さんの当時の体験や思いを聞かせていただきます。

二日目（7/14）

講義④ フィールドワーク

「千葉・南房総の中の朝鮮と戦争遺跡」

案内 NPO法人安房文化遺産フォーラム

千葉県房総半島南部はかつて安房（あわ）国と呼ばれ、東日本の玄関口として、古代から海を通じて人びとが行き来した交流の地でした。しかし19世紀以降は、海防政策上と「富国強兵」のスローガンのなか、とくに日清・日露戦争前後から東京湾沿岸は、軍事戦略上の最重要地域として位置づけられていき、1932年に「東京湾要塞」としての役割を果たすことになります。戦争末期になると、アメリカ軍上陸が想定され、国体護持や帝都防衛のかけ声のもと、この地でも本土決戦体制が敷かれます。当時7万人近い陸海軍の部隊が配置され、特攻基地などが建設されていきました。そして住民たちも軍隊の盾になるよう仕向けられた「ニセ陣地」づくりに動員されていきます。その中には朝鮮人も多くいました。この地に残されたさまざまな遺跡から、「平和・交流・共生」の精神を学びたいと思います。

【訪問予定地】

①赤山地下壕

現在の海上自衛隊館山基地のすぐ南側に、通称「赤山」と呼ばれる標高60mの小高い山のなかにある、総延長2km近い地下壕。軍極秘の航空機開発・実験に関わる格納施設や、航空機用の長距離無線通信などの機密の高い部隊が置かれていたと推察される。

②掩体壕

戦争末期に空襲から戦闘機を守るために作られた格納庫。河岸段丘を利用し、学生や住民、兵士たちによってつくられた。赤山周辺だけでも10基余りあったが、1基のみが現存する。

③米占領軍上陸地

1945年9月2日の降伏文書調印後に最初に米軍が上陸してきた地で、「4日間」の本土で唯一の「直接軍政」が行われた。

④128高地「戦闘指揮所」壕(婦人保護施設内)

戦争末期、館山への敵上陸を阻止するための抵抗拠点として「洲ノ埼海軍航空隊空」敷地内に建設された地下壕。

⑤「噫従軍慰安婦」石碑(婦人保護施設内)

1965年、深津文雄牧師は、社会から見捨てられた女性たちが一生安心して暮らせる婦人保護施設「かにた婦人の村」を設立した。1984年、一人の寮生が自ら従軍慰安婦体験を牧師に告白する。この告白を受けて、施設内にある小高い丘に1本のヒノキの柱を建て、翌年に、「噫従軍慰安婦」と刻まれた石碑が痕跡された。

⑥ハングル「四面石塔」(大蔵院)

1624年、雄誉霊巖上人が建立した四面石塔(千葉県指定文化財)。東西南北の各面に、ハングル・中国篆字・和風漢字・印度梵字で「南無阿弥陀仏」と刻まれている。特に注目されるのは「ハングル字形」が朝鮮国第4代王世宗が1446年に公布したものの、短期間で消滅したという創成初期の「東国正韻」式の字形といわれ、韓国にもない非常に貴重なものである。秀吉の朝鮮侵略と家康の回答兼刷還使事業に関わる時代背景から、異国で亡くなった戦没者供養と平和祈願をこめて建立されたと推察される。

*フィールドワークについて

- ①集合はJR東京駅バスターミナルに8時です。詳しくは後日改めてお知らせします。
- ②昼食はご持参いただくか、希望者にはお弁当を準備します。ご希望の場合はお申し込み下さい。
- ③歩きますので軽装でお越し下さい。

【第2期講座】(10/27)

講義⑤ 在日コリアン女性の人権 ～朝鮮植民地期から現在へ～

講師 ^{きむ う き}金 優 綺さん(在日本朝鮮人人権協会事務局)

昨年は元百合子先生に「在日コリアン」と「女性」という重なり合った被差別の問題について、総論的なお話をいただきました。それを受け今年は金先生から、朝鮮植民地時代からの朝鮮人女性の人権の歴史、実態調査や相談内容、ご自身の経験などから、在日コリアン女性の現状についてお話しいたします。

講義⑥ 在日コリアンハンセン病患者の人権

講師 ^{きむ き ぶん}金 貴 粉さん(国立ハンセン病資料館学芸員)

昨年は、両親がハンセン病患者だった黄光男さんから、患者家族としての体験や在日コリアンであることでの被差別体験などをお話しいたしました。今回は、学術的に在日コリアンハンセン病患者の研究をしている金先生にその特有な問題や名誉回復などへの取り組みについてお話しいたします。

講義⑦ 日本の朝鮮侵略思想の原点を考える

講師 仲尾 宏さん(KMJ理事長、京都造形芸術大学客員教授)

古代から明治維新时期まで日本と朝鮮半島は、比較的友好的な関係にありましたが、江戸時代後期からさまざまな思想家や政治家が朝鮮侵略を打ちだしていきます。仲尾先生には日本の朝鮮侵略思想の原点を問い直していただきます。

講義⑧ ドキュメンタリーの上映とトーク

[ドキュメンタリー映画上映] (92分) 『ヘイトスピーチ』(2015年)

[トーク] (60分) 佐々木 航弥さん(監督)



2014年大阪、在日特権を許さない市民の会(通称:在特会)が大阪のメインストリート御堂筋を中心に街宣活動を行っていた。「朝鮮人を大阪湾にたたきこめ!」デモ隊は進んでいく。それに抗議するカウンターと呼ばれる人々。在特会、カウンターはなぜぶつかりあうのか。何が起きているのか。

2014年の大阪での彼等の動きを、当時大学生だった2人が真っ向から見つめたドキュメンタリー。

卒業制作としてつくられたこの作品は非常に好評で、ヘイトスピーチを考える良作です。上映後は監督の佐々木さんにご登壇いただき、当時のエピソードやヘイトスピーチにかんする考えなどをお聞かせいただきます。

【スケジュール】

7 / 1 3 (木)	7 / 1 4 (金)	1 0 / 2 7 (金)	3 / 2 (金)
9:30 受付開始	8:00 J R 東京駅集合・出発 道中、DVD上映	9:30 受付開始	14:00 受付開始
9:55 開 会	9:45 かにた婦人の村 到着	9:55 開 会	14:30 講義⑧
10:00 講義①	10:00 座 学	10:00 講義⑤	17:00 終 了
11:50 昼 食	11:00 128 高地 「戦闘指揮所」壕 「噫従軍慰安婦」石碑	11:50 昼 食	
13:00 講義②	12:00 昼 食	13:00 講義⑥	
14:50 休 憩	13:00 赤山地下壕 掩体壕 米占領軍上陸地 ハングル「四面石塔」	14:50 休 憩	
15:00 講義③	16:00 出 発	15:00 講義⑦	
16:50 閉 会	18:00 J R 東京駅到着・解散	16:50 閉 会	
17:00 終 了		17:00 終 了	

*フィールドワークの行程は変更する場合がございますのでご了承ください。

【連絡先】

一般社団法人在日コリアン・マイノリティー人権研究センター
担 当 高敬一(コ・キョンイル) まで
〒544-0033 大阪府大阪市生野区中川西3-10-18
TEL06-6717-2701 FAX06-6717-2702
e-mail: kmj@star.odn.ne.jp URL: <http://kmjweb.com>

第19回 在日コリアン人権啓発東京セミナー

受講（聴講）申込書

（FAX 06-6717-2702）

☐ 受講（7講義とフィールドワークすべて受講される方です）

☐ 聴講（聴講希望講義番号 ）

* 聴講希望の場合は、講義番号をご記入下さい。例えば、水野さんの講義のみ聴講したい場合は①、フィールドワークの場合は④複数の場合は①②④⑥とご記入下さい。

①日本の朝鮮植民地支配と在日コリアン	水野 直樹さん
②大阪府警「土人」発言と排外デモをつなぐもの	能川 元一さん
③「ヘイトスピーチ」に抗して	崔 江以子さん
④フィールドワーク	
⑤在日コリアン女性の人権	金 優 綺さん
⑥在日コリアンハンセン病患者の人権	金 貴 粉さん
⑦日本の朝鮮侵略思想の原点	仲尾 宏さん
⑧ドキュメンタリーの上映とトーク	

フリガナ			
受講者		勤務先名 担当部署	
住所 電話 FAX	〒 TEL FAX		

* 複数名参加の場合は下記に受講（聴講）者名と担当部署をご記入ください。

受講（聴講）者名	担当部署	受講・聴講
		☐ 受講 ☐ 聴講（番号 ）
		☐ 受講 ☐ 聴講（番号 ）
		☐ 受講 ☐ 聴講（番号 ）

* 7月14日（金）フィールドワーク「お弁当」申込

☐ 申し込みます（ 個）

事務確認欄（事務確認欄は記入しないでください）

受付No	受付日	入金日	担当者	備考